

おかやまけんおかやましりつおおもと

学校名 岡山県岡山市立大元小学校

校長名 小川 孝司

所在地 〒700-0925 岡山市北区大元上町9番43号

TEL 086-241-8562

FAX 086-241-8578

E-mail oomotos@city-okayama.ed.jp

URL <http://www.city-okayama.ed.jp/~oomotos/>

1. 研究主題

「確かな学力を育む体育学習」

—明確な学習内容と豊かなかかわりから生まれる新たな授業の創造—

2. 研究の期間

平成19年度～平成21年度 3年間

3. 研究の目的

子どもたちを取り巻く環境やライフスタイルの変化に伴い、体力や運動能力、コミュニケーション能力の低下、生活習慣病の増加など、子どもたちをめぐる様々な問題が起こってきた。

こうした子どもの現状を踏まえて、体育科では、『生活の中に運動やスポーツを取り入れ、生涯にわたって運動やスポーツを楽しむことができる』豊かなスポーツライフの実現や、『自分の心や体に関心をもち、自分の生活をより健康的に改善することができる』健康なライフスタイルの実現をめざしている。また、体育学習では、自ら思いをもって主体的に運動や健康へかかわり、運動の楽しさを体感したり、健康の大切さを実感したりする中で、身体能力や運動の楽しみ方、健康な生活の仕方（技能・知識・態度・学び方）といった「確かな学力」を身に付け、子ども自身が自分の生活をより豊かなものにしていくことが求められている。

本校の子どもたちに目を向けてみると、「運動の取り組みについて二極化の傾向」が見られること、「体力や運動能力の停滞傾向」が見られること、「生活習慣の乱れ」が見られることなど、ほぼ全国的な傾向と同様な実態が浮かび上がってくる。

そこで、体育科のねらいを実現するためには、「明確な学習内容」と「豊かなかかわり」という2つの視点から授業づくりを工夫していくことが重要であると考え、研究に取り組んだ。

4. 研究の方法・実践の内容

《1年次》【運動領域】

『子どもから見た運動の楽しみ方』と「学び方」

子どもは、「場や用具」「他者との運動の行い方」「自分の動き」を変化させながら、より楽しめる状況をつくり出して運動しようとする。その過程で、運動を構成する要素である「モノ」「仲間」「自己」へのかかわり方を工夫するといった「学び方」を身に付けることができる。

「モノ」「仲間」「自己」へのかかわり方を工夫して運動を楽しむ

体育授業において、その学習空間を構成する要素は、運動に必要な場や用具（モノ）、共に運動する友だち（仲間）、運動する自分（自己）である。



子ども自身がそのいずれかを工夫していくことで、新たな動きや動き方、運動の様子を経験でき、それまで以上に運動を楽しむことができるようにする。

《2年次》【保健領域】

『新たな授業の展開』（学習過程）と「確かな学力」

新たな授業の展開

自分の心や体、生活に根ざした課題をもつ [課題をつかむ]



子どもの視点から保健事象にかかわる [課題を追求する]

○身近な生活環境に対する取り組みを工夫する(環境の視点から保健事象にかかわる)

○他者に対する取り組みを工夫する(他者の視点から保健事象にかかわる)

○自分の心や体、生活の仕方を工夫する(自分の視点から保健事象にかかわる)



自らの生活改善や健康増進の仕方を獲得する [振り返ってまとめる]

このように、子どもが自分にとって切実感のある保健事象を取り出し、自分の心や体、生活に根ざした課題を追求していくといった主体的な学習を展開することで、関心や意欲を高めな

がら活動に取り組む「態度」「環境」「他者」「自分」といった子どもの視点から能動的に保健事象にかかわる「学び方」、「実感を伴った理解」による生活に生きてはたらく「知識」を身に付けることができ、[確かな学力]を培うことができる。

《3年次》【運動領域】

『運動特有のおもしろさ』と「技能」

運動には、その運動ならではの動きを含む特有のおもしろさが存在する。しかも、そのおもしろさは、子どもをその運動に引き付けるはたらきがある。したがって、学習の展開では、『運動特有のおもしろさ』を「運動の特性」の中心に位置付けることが重要になる。また、この『運動特有のおもしろさ』は、「技能」の発揮を促すことになる。そのため、子どもは、「運動の特性」にふれる楽しさを求めながら、学習内容の一つである「技能」を身に付けることができる。

『新たな授業の展開』(学習過程)と[確かな学力]

新たな授業の展開

運動特有のおもしろさを感じ取る [運動の楽しさを感じる]

もつと味わうために 自分に合った運動の楽しみ方を見付ける

子どもの視点で運動を工夫する [運動の楽しさを広げる]

○場や用具を工夫する(モノへのかかわり方を工夫する)

○友だちと運動の行い方を工夫する(仲間へのかかわり方を工夫する)

○自分の動きや動き方、練習の仕方を工夫する(自己へのかかわり方を工夫する)

運動に出合った子どもは、まずその運動ならではの動きを含んだ『運動特有のおもしろさ』を感じ取り、運動の楽しさを感じる。そして、そのおもしろさをもっと味わおうと、自らの視点で運動の行い方を工夫して、運動の楽しさを広げていく。

したがって、子どもはこのような学習を展開する中で、「技能」「態度」「学び方」を身に付けていくことができ、[確かな学力]を培うことができる。

カリキュラムの構成(内容を系統的に位置付ける)

運動領域では『運動特有のおもしろさ』『技能』『態度』『学び方』、保健領域では「知識」「態度」「学び方」といった学習内容を発達段階に応じて系統的に位置付け、カリキュラムを構成した。

指導方法の工夫

○運動との出合わせ方(運動領域のみ)

簡単なやり方で運動に出合わせ、試しにその運動をやってみたり、感想を話し合ったりする。

○めあてのもとせ方

活動の成果や課題を想起させ、何を工夫したのかについて思いをもたせる。(運動領域)

意識することのなかった事象や切実感のある事象に出合わせる。(保健領域)

○学習形態の工夫

活動に応じて効果的な学習形態を工夫する。

○環境の設定

必要な器具や用具、資料を吟味して用意する。

○教師の出場

子どもの取り組みに対して、効果的な助言や称揚などを行う。

○振り返りの工夫

自分の取り組みによってわかったことを振り返らせる。

○指導体制の工夫(保健領域のみ)

養護教諭や栄養教諭、ゲストティーチャーと打ち合わせをする。

5. 研究の成果

『新たな授業の展開』(学習過程)と[確かな学力]

『運動特有のおもしろさ』を感じ取り、夢中になって運動する中で、「技能」を身に付けていくことができた。トレーニングとしての「技能」の習得ではなく、子どもが「運動の特性」にふれる楽しさを求めていく活動の中で必然的に「技能」を身に付けていくことができた。

『運動特有のおもしろさ』をより感じ、もっと楽しむことができるように、「モノ」「仲間」「自己」へのかかわり方を工夫していくことで、自分に合った楽しみ方を見付け、運動の楽しさを広げていくことができた。

自分の心や体、生活と結び付けて課題をつかみ、追求活動において「環境」「他者」「自分」とのかかわりを通して、内容を実感的に理解し、身に付けた知識を自分の健康生活での実践へと生かしていくことができた。

【子どもの変容】(授業から生活への転用)

授業で運動の楽しさを感じ、休み時間や家庭生活にも学習した運動遊びを取り入れる子どもの姿が多く見られるようになった。運動が生活の一部として定着していく手応えを強く感じた。

自分の心や体、生活に根ざした課題をつかんだことで、追求活動へ意欲をもって取り組み、獲得した知識の大切さを実感しながら生活の中で実践活動に取り組むことができた。

6. 研究の意義・発展性

子ども自身が主体的に運動や健康へのかかわり、運動の楽しさや健康の大切さを実感しながら身体能力や運動の楽しみ方、健康な生活の仕方を身に付けることができたことで、日常生活での実践へとつなげていくことができた。こういった学習経験を積み重ねていくことで生涯を通じた取り組みとなることを期待している。